発行日 第 11 版　令和5年10月2日

環　境　経　営　レ　ポ　ー　ト

対象期間　（令和4年7月　～　令和5年6月）

株式会社 ゼクシオ

明日を創造する企業へ……。

目　次

1．会　社　概　要・・・・・・・・・・・・　1

2．環　境　経　営　方　針・・・・・・・・・・・・　2

3．実　施　体　制・・・・・・・・・・・・　3

4．過去の環境負荷の推移・・・・・・・・・・・・　4

5．中　期　環　境　目　標・・・・・・・・・・・・　5

6．環　境　経　営　計　画・・・・・・・・・・・・　6

7．短期環境経営目標の実績及び評価・・・・　7

8．環境経営計画の評価と今後の取組み・・・・　8

9．環　境　関　連　法　規　の　遵　守　状　況・・・・　9

10．代表者による全体評価と見直し結果・・・・　9

11．環　境　経　営　取　組　状　況・・・・　10

1. 会社概要

１）企業名　　株式会社　ゼクシオ

２）代表者名　代表取締役　杉野　滋

３）所在地　　本　　社　　熊本県熊本市南区城南町宮地1002-1
TEL　0964-28-7777
FAX　0964-28-7963

八代営業所　　熊本県八代市千反町2丁目8-8-1
TEL　0965-34-8007
FAX　0965-34-8255

藤山事務所　　熊本県熊本市南区城南町藤山3201
TEL　0964-58-2331
FAX　0964-58-2332

４）事業内容　熊本県知事許可 特－30　第2530号
電気工事業

熊本県知事許可 般－30　第2530号
土木 / とび・土工 / 石 / 管 / 鋼構造物
しゅんせつ / 電気通信 / 水道施設 / ほ装
機械器具設置 / 解体工事業

５）従業員数　23名

６）環境経営責任者名および連絡先
環境経営責任者　　森田　真己
（本社・八代・藤山）　連絡先：藤山事務所　TEL　0964-58-2331
FAX　0964-58-2332

７）環境経営レポート対象期間　（令和4年7月　～　令和5年6月）

８）環境経営レポート発行日　令和5年10月2日

９）認証登録の対象範囲　株式会社ゼクシオ　全組織、下記の事業
電気工事業、とび・土工工事業、
土木工事業、管工事業、電気通信工事業、
機械器具設置工事業、解体工事業

2. 環境経営方針

株式会社ゼクシオ　は、ますます深刻化する地球温暖化や、
今後予想される地下資源の枯渇への対応が世界共通の重要課題と認識しております。
事業活動における環境負荷の低減や、資源の有効利用を全社員一丸となって
自主的・積極的に取り組むことで、未来の環境にやさしい社会づくりに貢献します。

行動計画

１）取り組み内容

1－1　電力・自動車・重機燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

1－2　建設資材の省資源、廃棄物の３R（減量、再使用、再生利用）の推進

1－3　水資源の節水

1－4　事務用品のグリーン購入

1－5　工事施工の能率を上げ、生産性を高める事による環境負荷の軽減

２）環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

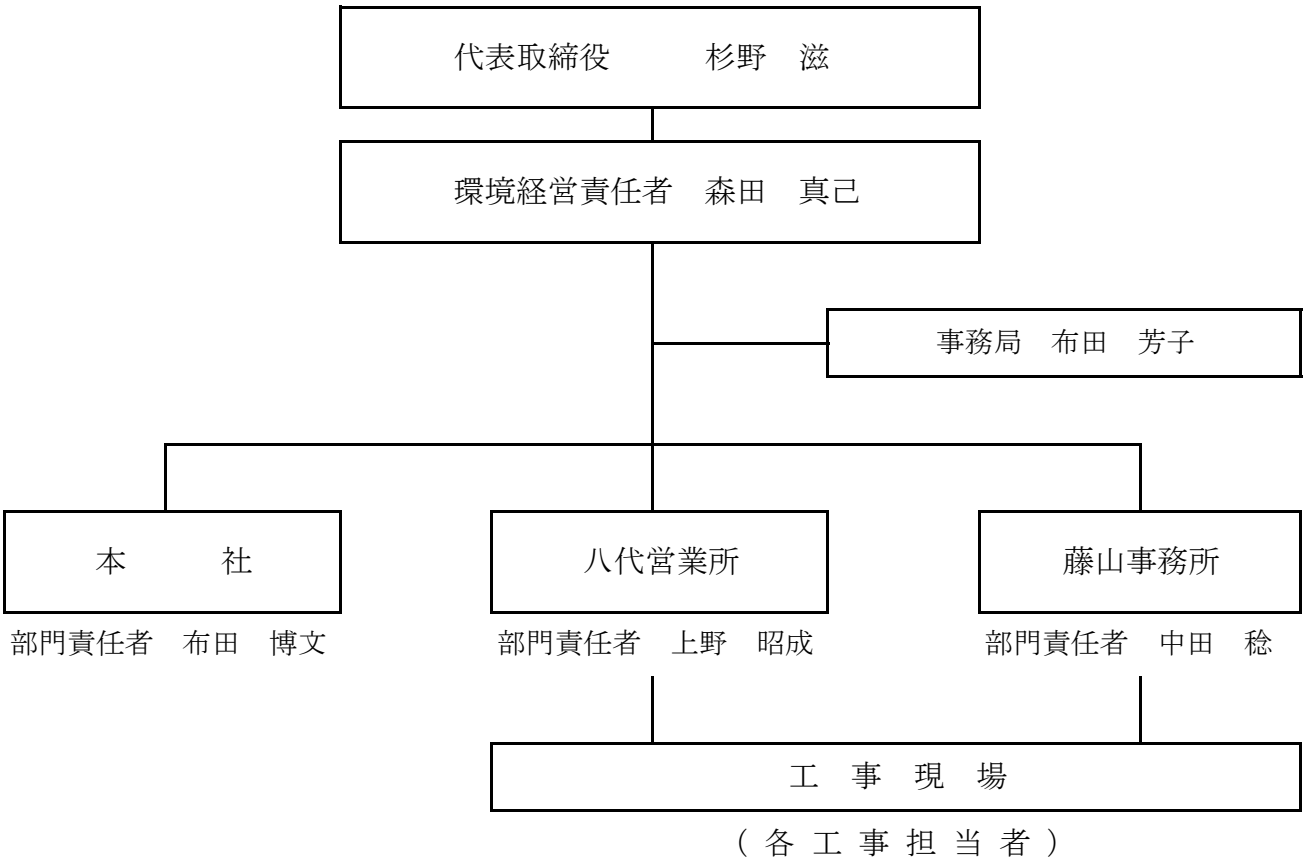
３）環境経営システムを継続的に改善します。

制定日 平成24年12月20日

株式会社　ゼクシオ
代表取締役　杉野　滋

3. 実施体制

実施体制（組織図）



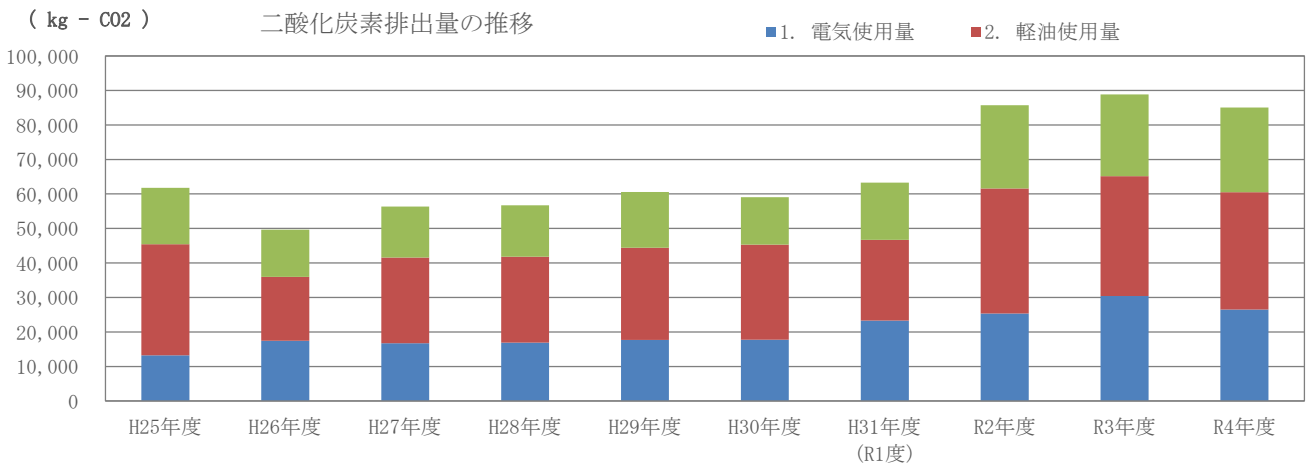
主な責任と権限

代表者	・環境経営方針の策定、環境経営目標及び環境経営計画の承認
	・環境経営システム全体の取組状況の評価と全般的見直し（年1回以上）
	・環境経営取組に必要な資源・人材の確保
環境経営責任者	・環境経営システム構築・運用の責任者
	・環境経営システムの代表者への報告
	・環境経営目標・環境経営計画の確認、進捗確認と修正の指示
	・環境情報の外部への連絡、緊急事態発生時の判断
	・問題の是正と予防措置の判断
	・環境経営教育訓練の計画と実施
部門責任者	・各事業所の環境経営活動計画の推進
事務局	・環境経営システムの構築・運用実務
	・環境経営責任者の職務補助
全　員	・環境経営計画の具体的な活動実施

4. 過去の環境負荷の実績推移

項目	単位	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度 (R1度)	R2年度	R3年度	R4年度
1. 電気使用量	kWh	13,232	17,433	16,741	16,925	17,672	17,761	23,305	25,355	30,411	26,499
2. 軽油使用量	L	32,221	18,507	24,809	24,888	26,714	27,524	23,411	36,268	34,762	34,000
3. ガソリン使用量	L	16,329	13,705	14,805	14,901	16,165	13,764	16,549	24,067	23,678	24,538
1 ～ 3. 二酸化炭素排出量	kg-CO2	127,567	91,543	107,802	108,472	114,907	110,978	105,637	158,131	160,579	154,324
4. 一般廃棄物搬出量	t	0.48	0.52	0.48	0.48	0.55	0.5	0.128	0.137	0.133	1.29
5-1. 産業廃棄物発生量	t	9.9	11.5	41.35	27.54	15.72	83.87	46.54	6.392	95	100
5-2. 産廃リサイクル率	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
6. 水使用量	m3	205	201	240	240	228	169	66	60	65	66

※目標値の期間は7月～翌年6月です



5. 中期環境経営目標（3ヶ年）

項目	単位	令和2年度（実績）	令和3年度（目標）	令和4年度（目標）	令和5年度（目標）
1. 電気使用量削減	kWh	25,355	25,228	25,101	24,975
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
2. 軽油使用量削減	L	36,268	36,087	35,905	35,724
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
3. ガソリン使用量削減	L	24,067	23,947	23,827	23,708
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
1 ～ 3. 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	158,131	157,340	156,554	155,771
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
4. 一般廃棄物搬出量削減	t	6.392	6.360	6.328	6.297
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
5. 建設産廃 リサイクル率推進	%	100	100	100	100
			100%	100%	100%
6. 水使用量削減	m3	65	64.7	64.4	64.0
			-0.5%	-0.5%	-1.0%
7. グリーン購入率の推進	%	40	40.8	42.4	45.0
			1%	1%	2%
8. 地域貢献活動	日	5	5	5	5
			±0	±0	±0
9. 建設工事工期短縮	日	10	10	10	10
			±0	±0	±0

※目標値の期間は7月～翌年6月です

※二酸化炭素係数は以下の通り

			単位	
二酸化炭素排出係数	電気	0.382	kg-CO2/kWh	2022年度　調整後排出係数
	ガソリン	2.32	kg-CO2/L	
	軽油	2.62	kg-CO2/L	
	灯油	2.49	kg-CO2/L	

6. 環境経営計画

取組項目	具体的な取組内容	主担当 本社	八代営業所	藤山事務所	現場
1. 電気使用量の削減	・事務所、現場のエアコンの適正温度管理（夏28℃、冬22℃）	布田	上野	中田	各現場担当
	・事務所、現場のエアコンのフィルター掃除（シーズンに月１回）	布田	上野	中田	各現場担当
	・休憩時、外出時等不要時の消灯の実施	布田	上野	中田	各現場担当
	・パソコンの利用時以外のOFF	布田	上野	中田	各現場担当
	・照明器具、空調設備、窓の清掃（年2回）	布田	上野	中田	各現場担当
2. 軽油使用量の削減 3. ガソリン使用量の削減	・重機使用前点検の実施、不使用時のエンジンオフ		各現場担当		
	・車アイドリングストップの実施	布田	各現場担当		
	・車の急加速、急発進、急停止	布田	各現場担当		
	（上記を含め「エコドライブ10のすすめ」取組み実施）	布田	各現場担当		
	・運搬時の効率的ルートの選択		各現場担当		
	・帰り荷や複数現場への共積み、乗り合いを行う		各現場担当		
4. 一般廃棄物の削減	・分別回収の徹底	布田	田中	中田	各現場担当
	・不要紙使用の分別（リサイクル業者に回収）	布田	田中	中田	各現場担当
	・文書の電子化への取り組み	布田	田中	中田	各現場担当
5. 建設産廃の リサイクル率向上	・廃棄物の分別徹底	布田	各現場担当		
	・リサイクル、再資源化の推進	布田	各現場担当		
	・委託業者の適切性確認	布田	各現場担当		
	・仮設工事などの、撤去品等の再利用		上野	中田	在庫の有効利用
6. 水使用量の削減	・節水の周知	布田	田中	中田	
	・節水ステッカーによる推進	布田	田中	中田	
	・車両洗車の際は泥等を落としてから行う	布田	田中	中田	
7. グリーン購入率の推進	・エコマーク・グリーンマーク商品の優先購入	布田			
8. 地域の環境貢献	・地域での清掃活動の実施	布田	各現場担当		
9. 建設工事工期の短縮	・施工計画時に工種ごとの工期短縮できる工程を検討する		各現場担当		
	・事務処理期間の短縮により工期の短縮を実施する		各現場担当		

7. 短期環境経営目標の実績及び評価

項　目	単位	令和2年度 R2.7～R3.6	令和4年度 R4.7～R5.6		
		実績　(基準)	目標	実績	実績達成率% 1～4、6 目標/実績 5.7～9 実績/目標
1．電気使用量削減	kWh	25,355	25,101	26,499	95%
2. 軽油使用量削減	L	36,268	35,905	34,000	106%
3. ガソリン使用量削減	L	24,067	23,827	24,538	97%
1 ～3.二酸化炭素排出量	kg-CO2	158,131	156,554	154,324	101%
4. 一般廃棄物搬出量削減	t	6.392	6.33	1.290	491%
5. 建設産廃リサイクル率向上	%	100	100	100	100%
6. 水使用量削減	m3	65	64	66	98%
7. グリーン購入率の向上	%	40	40	40	100%
8. 地域貢献活動	回	5	5	2	40%
9. 建設工事工期短縮	日	10	10	10	100%

評価分析

1. 電気使用量削減	工事量増加により、目標が達成できていないが、 昨年より減少しているため継続して活動に取り組む。
2. 軽油使用量削減	エコ運転・アイドリングＳＴＯＰを継続して 実施/記録し目標達成を行う。
3. ガソリン使用量削減	同上
1～3 二酸化炭素排出量	目標が達成できるように、継続して取組む。
4. 一般廃棄物搬出量削減	継続して活動を実施する。
5. 建設産廃リサイクル率向上	継続してリサイクル率100%を実施する。
6. 水使用量削減	節水を継続して活動する
7. グリーン購入率の向上	継続して活動を実施する。
8. 地域貢献活動	継続して活動を実施する。
9. 建設工事工期短縮	継続して活動を実施する。（事務作業の効率化の為、 書類の共有化及びペーパーレスを実施する）

8. 環境経営計画取組の評価と今後の取組

実施状況　○よくできた　△だいたいできた　×できなかった

取　組　項　目	具　体　的　取　組　内　容	実施状況	評価と今後の取組
1. 電気使用量の削減	・事務所、現場のエアコンの適正温度管理 （夏28℃、冬22℃）	○	冬場の電気使用量削減が課題となる。コロナ対策のため換気が必要。 エアコンの冷暖房使用時間の設定を行う。
	・事務所、現場のエアコンのフィルター掃除 （シーズンに月１回）	○	実施しているので、継続をする。
	・休憩時、外出時等不要時の消灯の実施	○	実施しているので、継続をする。
	・パソコンの利用時以外のOFF	○	実施しているので、継続をする。
	・照明器具、空調設備、窓の清掃（年2回）	○	今後も積極的に行う。
2. 軽油使用量の削減 3. ガソリン使用量の削減	・重機使用前点検の実施、不使用時のエンジンオフ	○	実施しているので、継続をする。
	・車アイドリングストップの実施	○	実施しているので、継続をする。
	・車の急加速、急発進、急停止	○	実施しているので、継続をする。
	（上記を含め「エコドライブ10のすすめ」取組み実施）	○	実施しているので、継続をする。
	・運搬時の効率的ルートの選択	△	まだ、徹底の余地あり（作業効率の話合が必要）
	・帰り荷や複数現場への共積み、乗り合いを行う	△	まだ、徹底の余地あり（作業効率の話合が必要）
4. 一般廃棄物の削減	・分別回収の徹底	○	実施しているので、継続をする。
	・不要紙使用の分別（リサイクル業者に回収）	○	実施しているので、継続をする。
	・文書の電子化への取り組み	△	まだ、徹底の余地あり
5. 建設産廃の リサイクル率向上	・廃棄物の分別徹底	○	実施しているので、継続をする。
	・リサイクル、再資源化の推進	○	実施しているので、継続をする。
	・委託業者の適切性確認	○	実施しているので、継続をする。
	・仮設工事などの、撤去品等の再利用	○	実施しているので、継続をする。
6. 水使用量の削減	・節水の周知	○	実施しているので、継続をする。
	・節水ステッカーによる推進	○	実施しているので、継続をする。
	・車両洗車の際は泥等を落としてから行う	○	実施しているので、継続をする。
7. グリーン購入率の推進	・エコマーク・グリーンマーク商品の優先購入	△	見直しを行い目標達成できるように継続をする。
8. 地域の環境貢献	・地域での清掃活動の実施	○	実施しているので、継続をする。
	・工事現場周辺の清掃活動の実施	○	実施しているので、継続をする。
9. 建設工事工期の短縮	・施工計画時に工種ごとの工期短縮できる工程を検討する	△	見直しを行い目標達成できるように継続をする。
	・事務処理期間の短縮により工期の短縮を実施する	△	見直しを行い目標達成できるように継続をする。

9. 環境関連法規の遵守状況

法　規　制　等	遵　守　状　況
廃棄物処理法	遵守
建設リサイクル法	遵守
建築基準法	遵守
騒音・振動規制法	遵守
オフロード法	遵守
フロン排出抑制法	遵守
浄化槽法	遵守

なお、関係当局からの違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

10. 代表者による評価と見直し結果

1. 今回、エコアクション21認証後10年目の取り組みであった。
   環境経営方針は適正と判断しており、環境経営方針、目標及び環境経営計画、実施体制は現状のままとする。

2. 省エネルギー活動を推進し二酸化炭素排出量の削減を継続的に取り組む為、削減目標を定める。
   令和5年度環境目標
   ガソリン使用量の削減　　基準年度より-0.5%以上削減
   軽油使用量の削減　　基準年度より-0.5%以上削減
   電力・灯油使用量の削減　基準年度より-0.5%以上削減
   他の目標は継続する
   水素自動車１台、ＨＶ車4台の導入によるエネルギー削減効果を期待する。

3. 各現場にて発生する梱包資材等の分別の徹底及び残資材の有効活用の実施

令和5年10月2日
代表取締役　杉野　滋

11. 環境経営取組状況

清掃活動　熊本市道路ふれあい美化ボランティア

県電設協

熊本高森線を清掃

1年ぶりに活動開催

熊本県電設業協会（岩崎裕会長）の会員とその家族ら143人が6日、熊本市中心街の熊本高森線で清掃作業に取り組んだ。

熊本市との協定に基づき、春と秋の年2回実施している「道路ふれあい美化ボランティア活動」。新型コロナウイルス感染症の影響で5月の活動が中止となったため、今回は約1年ぶりの開催となる。

作業前、菅子利憲安全福祉委員長（タイヘイテクノス）の開始挨拶が代読され、「県内では、少しずつ社会経済活動の再開に向けた動きも出ている。コロナ禍以前の生活にまだ戻らないが、活動を通して少しでも地域社会に貢献していこう」と呼び掛けた。

白川の大甲橋から坪井川の桜町橋までの1・5㌔を清掃。雨が降る中、参加者は、歩道や植樹帯に捨てられたペットボトル、空き缶、ビンなどを約1時間かけて拾い集めた。

協会のボランティア活動は、国県道の管理が移行される以前に県と協定を結んでいた「ロード・クリーン・ボランティア」をさかのぼると通算24回目。

県電設協

貢献活動に146人参加

熊本市中心街の道路清掃

熊本県電設業協会（岩崎裕会長）は14日、「道路ふれあい美化ボランティア活動」に取り組んだ。会員とその家族ら146人が参加し、熊本市中心街の熊本高森線を清掃した。

熊本市との協定に基づき、春と秋の年2回実施している活動。白川の大甲橋から坪井川の桜町橋までの1・5㌔区間を2グループに分け、歩道や植樹帯に捨てられたごみを約1時間かけて拾い集めた。

作業前には、安全福祉委員会の田村太作委員（タイヘイテクノス）が委員長挨拶を代読し、「協会のボランティアは今回で通算25回目となる。活動はSDGsの目標にも通じるもので、持続可能な社会の実現に少しでも貢献しよう」と参加者に呼び掛けた。

熊本県ＳＤＧｓ登録

SDGs

熊本県SDGs登録事業者
登　録　証

熊本県SDGs登録事業者として登録し、ここに証します。

登録事業者：株式会社ゼクシオ

登録期：第３期

登録期間：令和４年（２０２２年）９月８日から
令和７年（２０２５年）９月７日まで

令和４年（２０２２年）９月８日

熊本県知事　蒲島　郁夫

熊本県知事印

熊本県

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS